

観光客を長浜のファンにする！

(長浜商店街連盟)

訪問日：平成 28 年 1 月 15 日

担当 AD:加治 武史

湖北エリアの商業中心地



滋賀県長浜市は、日本最大面積を誇る琵琶湖の北側に面しており、いわゆる「湖北」に位置しています。羽柴秀吉が建設した長浜城の城下町では商業が発展しました。

長浜市は周辺も含めた幅広い地域が商圈となり、商業都市として発展を続け、昭和 23 年、中心市街地で「長浜商店街連盟」が形成されました。現在は、大手門通り商店街(振)、ゆう壺番街商店街(振)、博物館通り商店街(振)、やわた夢生小路商店街、巴瑠夢大路商店街の 5 商店街が加盟しています。

「黒壁」の誕生、観光地としての長浜

一時期は大型小売店の郊外への移転などの影響で中心市街地の商店街は疲弊していました。しかし平成元年、明治時代の旧第百三十銀行の建物保存のため、商業者や地元企業、市からの出資を受け、第三セクター「黒壁」が設立されました。黒壁は旧第百三十銀行の建物を「黒壁ガラス館」として整備・保存し、他の町家や空き店舗も新たな店舗や施設として改修しました。



こうしてまちは古い街並みを活かしつつ生まれ変わっていきました。長浜は「観光地長浜」へと変わり、次第に観光客が増えていったのです。また長浜地域は、戦国時代には近江国として「京」へ上る地域として戦略的にも重要な役割を担った地域です。前述のとおり、長浜は羽柴秀吉の領土であったこともあり、NHK の大河ドラマでもよく登場します。大河ドラマにあわせて、長浜商店街連盟を含め、街をあげて「北近江秀吉博覧会」といったイベントを行ったことも集客のきっかけとなりました。その後も何度かその年の大河ドラマにあわせたイベントを行っています。

リピーター客を増やす取組み



現在では年間 200 万人の来街者があり、空き店舗も少なく、イベントも多いことから一年を通じてにぎやかな長浜ですが、長浜商店街連盟は、今後もこの継続させるためにはまちのファンづくりが必要と考え、観光客をリピーター客にする仕組みを実施しています。

代表的なものとしてポイントカード事業があります。平成 7 年、それまで商店街連盟のスタンプ部会で行っていた事業を独立させ、各商店街や地元金融機関、企業などの出資により「シュッセカード」というポイントカード事業を担う「長浜倶楽部株式会社」を立ち上げました。来街者に、長浜を一つのモールと捉えてポイントカードを利用させていただき、顧客データの分析に活用し固定客の囲い込みを行ってきました。その後、地元住民への PR と利便性の向上を考え、市と連携して住民基本台帳カードを利用したポイントカードにリニューアルし、地元にも根付くポイントカードとなりました。

この他にも、平成 27 年度には同じく長浜倶楽部が運営事務局となり、リピーター客へのおもてなしとして「CLUB NAGAHAMA 事業」を実施しました。県の補助金を活用してカードリーダーなどの設備を導入し、プレミアムがついたプリペイド式電子マネーカードを販売するとともに、提示により観光施設料金の割引などの特典もあり、長浜に何度も来てもらうきっかけにしています。

今後の中心商店街の展望

観光地として一定の認知度とファンを得たことと、商店街連盟が実施するものもふくめて長浜の中心商店街ではイベントが多く行われていることから、長年の賑やかさが日常となり、事業者に危機感がなくなってきたことも事実です。特別に何かをしなくてもお客さんは街を歩き、店舗にも立ち寄ることもあります。このことから店舗のリノベーションや後継者について、各店舗の対応がなかなか追いついていません。商店街連盟としては、このことがまち全体の魅力低下に繋がりにかぬないと考え、今後は後継者問題をふくめ既存店舗の強化と、中心商店街の新たな集客店舗として、特色あるクリエイターショップの誘致と創業促進に力を入れていく予定です。商店街連盟だけでなく、長浜全体の魅力向上のため、他の組織と連携しながら、中心商店街をマネジメントしていく予定です。

商店街データ

商店街名：長浜商店街連盟

所在地：長浜市高田町 10 番 1 号（長浜商工会議所内）

担当者：会長 沢田 昌宏

連絡先：0749-62-2500